

2004年新潟県中越大震災・ 新潟県立近代美術館の活動報告

1. 総 括

はじめに

突如として未曾有の大地震に見まわれた地方の県立美術館。私たち館員はいつ果てるともない余震が続くなかで、「展覧会」「所蔵品」「施設」「情報」をめぐって今までに体験したことのない対応を迫られた。不意打ちの災害に直面して、あらためて美術館とはなにか、災害時に美術館に何が出来るか本気で問われる機会ともなった。余震におびえながらの慌ただしかった日々のことは今でも忘れられない。確かにこうした私たちの体験は新潟県中越大震災という地域的、個別的に限定された条件下のものであり普遍性を持つものではないだろう。しかし、そういう意味では決して普遍的とは言い難い「阪神・淡路大震災」を経験した当地の美術館、博物館の震災リポートがいかに意識ある美術館・博物館関係者に教訓として汲みとられその後の対策や活動に有意義だったかを私たちは承知している。すでに地震当時からは月日がたったが、幸い被害状況や体験を裏付ける多くの記録や資料が残されていた。今回、何よりも私たち自身のために、願わくば関心ある全国の美術館、博物館関係者のためにもとの思いから、地震時の体験を紀要にまとめ、報告することにした。今後このような体験とその報告を他館の館員がしないですむことを祈りながら。

館内での対応

館員が共有していた地震対応の行動規範を一言で言えば「公開」と「保存」という相反する美術館の機能をどのように両立させ、一日も早い館活動の再開を図るかだったと思う。具体的な対応については別稿で各担当者から被害状況、作業状況がリポートされているのでそれを御覧いただきたい。すでに当館でも災害時の対応と職員の緊急出勤体制を定めたマニュアルはあるが、今回の地震では余震という予測不能な地殻現象のなかで十分に機能したとは言い難い。リポートでは触れられていないが、館内で協議して咄嗟に実行された対応を記録しておきたい。
①職員の安否確認。
②風説の流布を未然に防ぐためにHP上での被害状況の掲載とメールによる作家への作品被害状況の連絡。
③地震見舞の受付連絡簿の作成。
④地震対策事業のための事前検討シートの作成、配布。
⑤館活動再開判断基準と再開後の監視、避難誘導マニュアルの作成。
⑥外部からの協力依頼への対応検討などである。
①以外は何れも館員からの自発的な提案であり、今思えば大いに役立った。

役立ったと言えば、阪神淡路大震災の経験を生かせたことが大きい。館内では地震に対する意識は日常的に共有されており、展示、保管の際には可能な対策を施してきた。耐震用の展示用具、収蔵金具の有効性が図らずも今回実証され、地震の規模の割には被害を少なく食い止めることができた。対策という点では推測だが、建築の9割以上が平屋の構造だったことも地震には有効だったと思う。展示室、収蔵庫、空調設備に搖るぎはなかった。

館外に向けた活動

地震への対応が少しは落ち着き、館外にむけた活動を考える余裕が出来たのは11月に入ってからだった。そこで三つの活動が提案された。「保存」「公開」「会場提供」、何れも美術館の機能、

施設の特徴を踏まえたもの。①「美術品保管への協力」地震で被災した個人、団体からの申し出による、美術品の一時預かり。実際、十日町市のミティラー美術館の作品を預かった。②「県民への鑑賞機会の提供」被災者に一時でも良いから寛ぎの時間を無料で提供しよう。無料は実現しなかったが、この思いはリポートにもある地域の人々に支えられた「いきいき中越っ子展 中越大震災被災学校美術展」の開催に結実した。③「イヴェント開催への会場提供」長岡市内の文化施設が休館中で使用不可能。復興催事への講堂、ギャラリー、屋外の敷地の提供である。このほかにも被災した自治体からの申し入れがあれば出来るだけの協力を館内で申し合わせた。これも館外へ向けた活動と言えると思うが、余震の続く中で、予定されていた展覧会のため長野県信濃美術館へ112点の作品を貸し出した。相手館の意志を確認、作品の状態、運搬手段、交通路の状況を調べ貸出条件がクリア出来ると判断したからである。信濃美術館の女性学芸員がヘルメット姿で作品点検していたことを思い出す。信濃美術館からは非常時の英断と大変感謝された。

ま と め

私たちはいくつかの偶然と幸運にも恵まれたことを心にとめておきたい。地震が閉館後だったこと。職員に人的被害がなく、県立館で市町村の博物館職員が復旧事業に駆り出されるなか、自館での対応と活動に専念出来たこと。電気、電話、水道の確保。IT情報網が普及し情報発信に威力を発揮したこと、などである。しかし、偶然や幸運はいつも保証されている訳ではない。今回の経験をふまえて想定出来る限りの対応策をつくっていきたい。そのひとつとして、すでに自治体間で結ばれている防災協定を美術館でも取り入れ近県館同士の「美術館防災協定」は必要ないか。被災館の経験から提案してみたい。

最後に、被災にたいし、多くの方々からお見舞いをいただいた。あらためてこの紙面をかりてお礼申し上げます。

(小見 秀男)

2. 地震の経過

10月23日、土曜日。17時56分。

新潟県中越大震災発生。直下型。マグニチュード6.8。

震度6弱。長岡市役所（長岡市幸町）設置震度計にて

その晩、続いて起こった震度4以上の余震は、以下の通り。

18時3分	震度5弱	マグニチュード6.3
18時7分	震度4	マグニチュード5.7
18時11分	震度5弱	マグニチュード6.0
18時34分	震度5強	マグニチュード6.5
19時45分	震度4	マグニチュード5.7
23時34分	震度4	マグニチュード5.3

次の日は晴天。抜けるような青空。この日は大きな余震もなし。県立近代美術館は電気・水道・ガス等落ちなかつたのが、不幸中の幸い。翌日早朝、再び激しい揺れ。

10月25日(月) 6時4分 震度5弱 マグニチュード5.8

翌日はまた、比較的静かな一日。しかし翌27日には、本震に迫るほどの余震が発生。しかも、震源地が刻々と移り、続く2度の余震では長岡周辺の震度が最大だった。

10月27日(水) 10時40分 震度5強 マグニチュード6.1
12時5分 震度4 マグニチュード4.4（最大震度地）
15時23分 震度4 マグニチュード4.0（最大震度地）

一週間ほど静かに過ぎる。11月3日(木)、施設点検。全職員が出勤した4日(木)、8時半に業務が始まって30分もたたない内にまた余震。

11月4日(木) 8時57分 震度4 マグニチュード5.2

館内の点検・修理を終え、11月7日(日)に展覧会再開。しかし翌日、月曜休館日に常設展示室の展示替え作業の途中に再び余震。2度目のは、長岡周辺の震度が最大。

11月8日(月) 11時15分 震度4 マグニチュード5.9
11時27分 震度4 マグニチュード5.0（最大震度地）

翌々日の、未明に余震。

11月10日(水) 3時43分 震度4 マグニチュード5.3

その後、一ヶ月以上余震なし。安全宣言も出され油然としていた年末に震度4。長岡周辺の震度が最大。

12月23日(木) 21時3分 震度4 マグニチュード4.5（最大震度地）

以後、震度4以上の余震は起こっていない。なお、本震発生の平成16年10月23日から本日（平成17年3月9日）まで、長岡における震度1以上の地震は、通算319回。

3. 作品の被害状況と処置

作品等の被害状況

中越大震災において被災した作品、展示用具等について記す。当日10月23日19時から24日3時にかけて状況確認、撮影をひとまず行い、現状保存して翌朝を迎えることとした。なお、本震翌日24日(日)は臨時休館、25日(月)は定例休館日のため出勤者が少なく、余震に供えて応急措置をするが、本格的な落下、転倒防止、撤去等の余震対策は26日(火)から行う。対策措置を施していた27日(水)にも大きな余震があったが、それによる被害はないと考えられる。

(1) 作品の被害状況

(→○番号は写真番号)

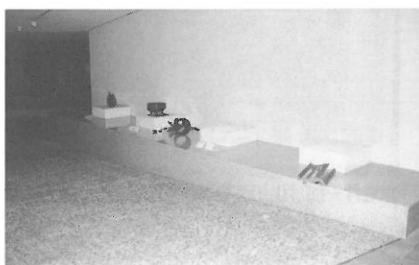
作家名	作品名（制作年）	形態	展示場所	被害状況	確認日	被害度・備考
岩田 久利	花器（1991）	ガラス	展示室 入口前	転倒・落下、大破（→①②）	10/23	×修復不可能
原 益夫	エンドレス（1997）	鋳金	展示室 入口前	転倒・落下、金メッキ損傷・ ひび割れ（→①③）	10/23	△修復済み
三輪 晃勢	海女（1937）	二曲一 隻屏風	展示室 1	転倒（→④）	10/23	○損傷等なし
津田 信夫	銅鑄壺・ 波光連如（1942）	鋳金	展示室 1	横転（アクリルカバー付展 示台内）（→⑤）	10/23	○微細な傷を確認す るが、地震による ものか不明
郷倉 千鶴	豊饒群雀（1928）	四曲一 双屏風	展示室 1	第1扇と第8扇の開きが開 く（→⑥）	10/23	○損傷等なし
モーリス・ ドニ	ベンガル虎 バッカス祭（1920）	油彩・ 額装	展示室 2	分割された2点の額装のズ レ（→⑦）	10/23	○損傷等なし
マックス・ ビル	（題不詳・1990） (亀倉コレクション)	水彩・ 額装	収蔵庫 2	吊り金具1箇所（裏面左） の外れによる傾斜（→⑧）	10/23	○損傷等なし
町 春草	ともしひ (亀倉コレクション)	書・ 額装	収蔵庫 2	マックスビル作品の傾斜の ため額角が裏面にあたり、 裏張りに破れ、また、紐の 結び目による破れ (→⑨)	10/23	○作品本紙、表面へ の損傷等なし
堂本 尚郎	（題不詳・1982） (亀倉コレクション)	水彩・ 額装	収蔵庫 2	紐掛けによるフックのズレ のため傾斜（→⑩）	10/23	○損傷等なし
中山 翔郎	凍る影（1988）	油彩・ 額装	収蔵庫 2	底面の額枠の落下（→⑪）	10/23	○額枠の落下以外損 傷等なし
荒井 一郎	山川の春（1962）	油彩・ 額装	収蔵庫 2	底面の額枠の落下（→⑫）	10/23	○額枠の落下以外損 傷等なし
鈴木 力	聖者の街'89(アッシジ) (1989)	油彩・ 額装	収蔵庫 2	底面の額枠の一部落下 (→⑬)	10/23	○額枠の落下以外損 傷等なし
安宅 駿雄	踊（1977）	油彩・ 額装	収蔵庫 2	額縁の石膏装飾の損傷 (→⑭)	10/23	○石膏装飾の損傷以 外損傷等なし
猪爪 彦一	風景（1990）	油彩・ 額装	収蔵庫 2	額縁の右上角のズレ (→⑮)	10/23	○額ズレ以外の損傷 等なし
三芳 悅吉	雪景の中の静物 (戦場ヶ原)（1971）	油彩・ 額装	収蔵庫 2	額縁の左下角のズレ (→⑯)	10/28	○額ズレ以外の損傷 等なし
森下紀久子	作品I（1964） (寄託)	油彩・ 額装	収蔵庫 2	ヒートンの破断（→⑰）	10/23	○ラックの下部に掛 けていたので、ラ ック受けとの落下 距離が短く、その 他の損傷等なし
斎藤 義重	“反対称”三角形 No.1（1976）		収蔵庫 2	ヒートンの曲がり（→⑱）	10/23	○作品本体の損傷等 なし

作家名	作品名（制作年）	形態	展示場所	被害状況	確認日	被害度・備考
富岡惣一郎	北アルプス信濃川（1976）	油彩・額装	収蔵庫2	吊り金具の一部ネジはずれ（→⑯）	10/23	○作品本体の損傷等なし
元永 定正	ピンク（1971）	油彩・額装	収蔵庫2	カンヴァス枠コーナー1箇所の落下	10/23	○コーナー落下以外の損傷等なし
松井 紫朗	伝声管（1997）	彫刻	野外	接合部のズレ（→⑰）	10/26	○損傷等なし
北川 民治	大地（1939）	油彩・額装	収蔵庫2	額縁の左上下角のズレ（→⑱）※ハンガーのメッシュの歪みあり	10/28	○額縁以外の損傷等なし
小柳 耕二	黒い山	油彩・額装	収蔵庫2	右S管はずれ落下（→⑲）	10/28	○ラックの下部に掛けていたので、ラック受けとの落下距離が短く、その他の損傷等なし
オーギュスト・ロダン	カリアティードとアントラント（1876頃）	彫刻	エントランス	台座との接合部の漆喰のヒビ（→⑳）	11/3	○本体への損傷等なし

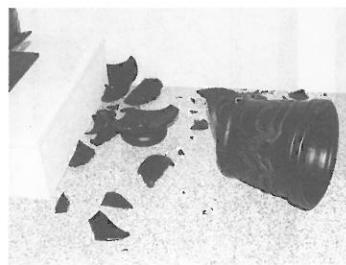
(2) 展示用具

品 名	設置場所	被害状況	確認日	関連・備考
彫刻台	展示室入口ロビー	淀井敏夫 《エピタウロス・追想》（1984）の彫刻台のズレ（→㉔）	10/23	作品の転倒はなし
作品受け台	展示室2	モーリス・ドニ 《ベンガル虎 バッカス祭》（1920）の受け台のズレ（→㉕）	10/23	
畳	収蔵庫2	空箱の寄りかかり	10/23	
可動壁	展示室1・2 企画展示室	可動壁のズレ（→㉖、㉗）	10/23	これによる作品の落下等はなし
	展示室1・2	展示フックによる壁面の擦れ（最大15cmの振幅）（→㉘）	11/8	
	展示室2	モーリス・ドニ 《ベンガル虎 バッカス祭》（1920）の額による擦れ（最大8cm）	11/8	
収蔵庫ハンガー (ラック)	収蔵庫1・2・3	ハンガーの飛び出し（最大215cm）（→㉙、㉚）	10/23	ストッパーの使用有無に関わりなく移動
	収蔵庫2	ハンガーのメッシュの歪み（→㉛、㉜）	10/28	重量のある作品が懸かっていた箇所4作品
温室時計	収蔵庫2	電池蓋の開放により停止（→㉝）	10/27	他は激しい振幅を記録したものと記録していないものあり
展示ワイヤー	展示室2	ガンタッカーで止めていた部分のワイヤーコーティングのささくれ	11/8	

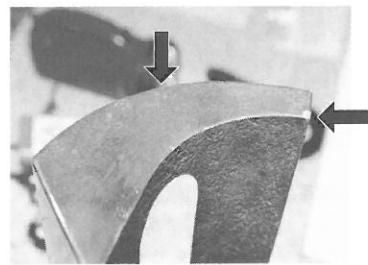
【被害状況写真】



①展示室入口よりエントランスを望む。
手前より原、岩田作品

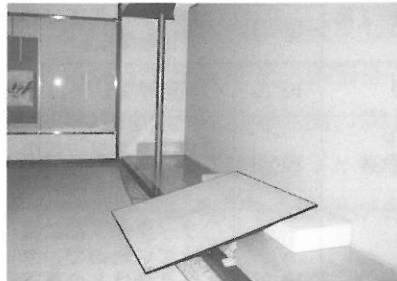


②大破した岩田久利《花器》

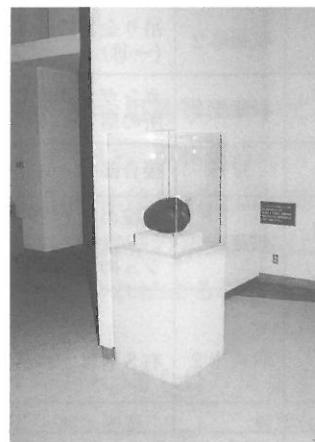


③原益夫《エンドレス》の損傷

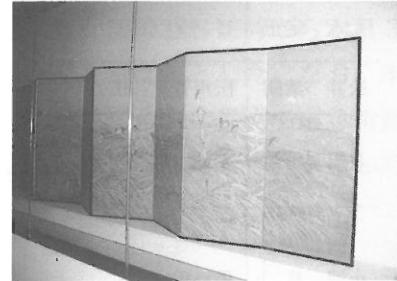
【被害状況写真】



④三輪晃勢《海女》の前方への転倒



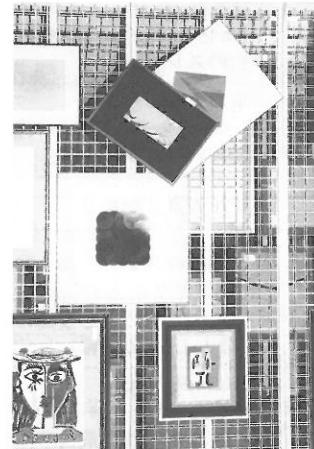
⑤津田信夫《銅鏡壺・波光連如》の
ケース内での横転



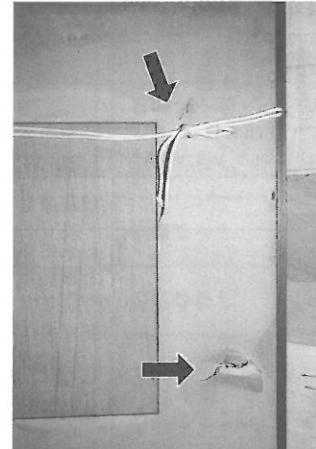
⑥郷倉千鞠《豊饒群雀》の第1, 8扇の
開放



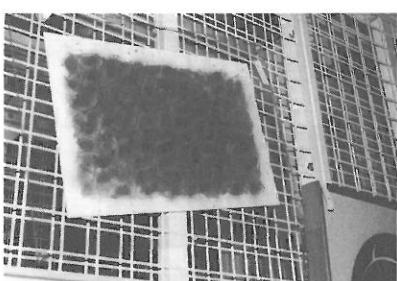
⑦モーリス・ドニ《ベンガル虎・バッカス祭》の
額および受け台のズレ



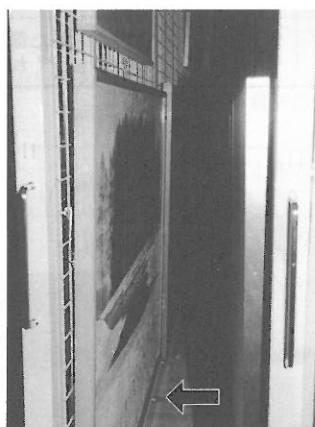
⑧町春草《ともしび》と
マックス・ビル作品の傾斜



⑨町春草《ともしび》裏面の損傷
上は紐の結び目によるもの。
下はマックスビル作品があたった
ためによる破れ



⑩堂本尚郎作品



⑪中山爾郎《凍る影》の
額底面の落下



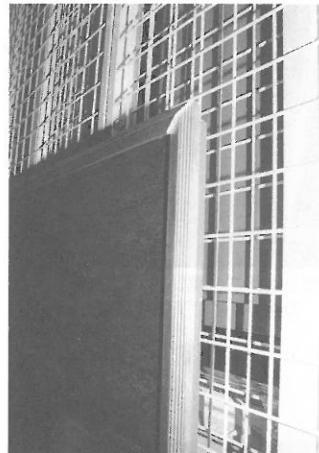
⑫荒井一郎《山川の春》の額底面の落下



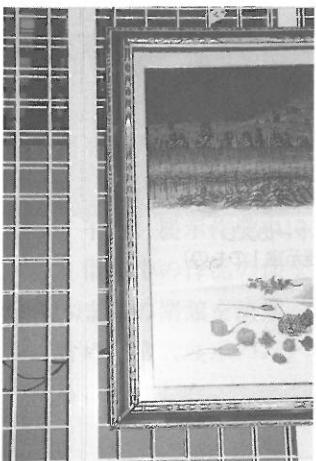
⑬鈴木力《聖者の街'89（アッシジ）》の額底面の落下



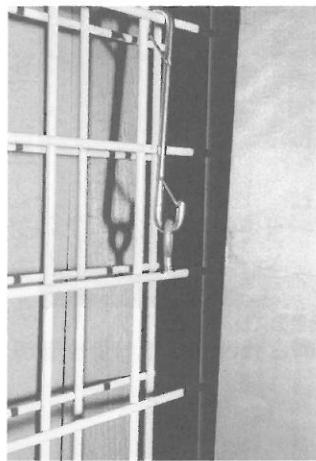
⑭安宅馬雄《踊》の額装飾の損傷



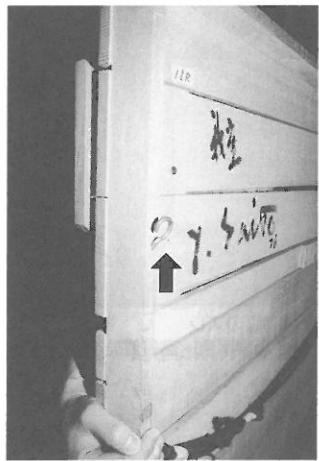
⑮猪爪彦一《風景》の額右上のズレ



⑯三芳彌吉《雪景の中の静物（戦場ヶ原）》の額左下のズレ



⑰森下紀久子《作品I》(寄託) のヒートン破断



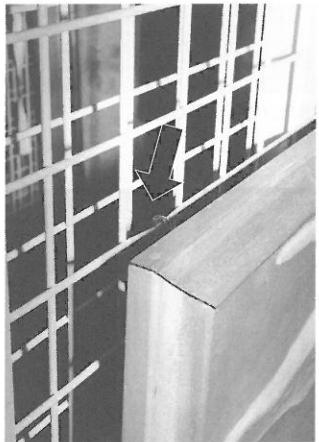
⑱斎藤義重《“反対称” 三角形 No.1》のヒートン曲がり



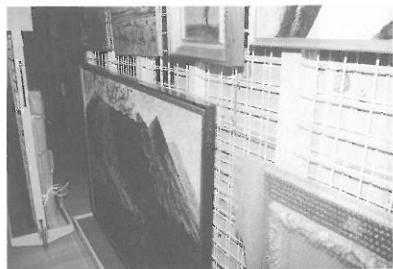
⑲富岡惣一郎《北アルプス信濃川》の吊り金具のネジとれ



⑳松井紫朗《伝声管》接合部ズレ



㉑北川民次《大地》の額左上のズレとハンガーメッシュの歪み



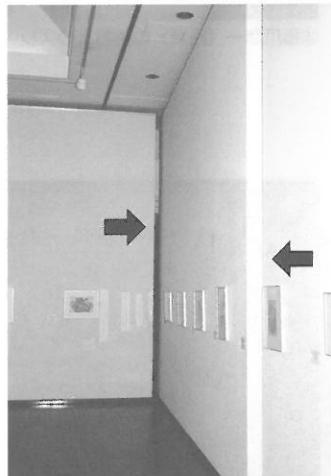
㉑小柳耕二《黒い山》の右側S管がはずれての落下(すぐ下に受けあり)



㉒ロダン《カリエティードとアトラント》の接合部漆喰のヒビ



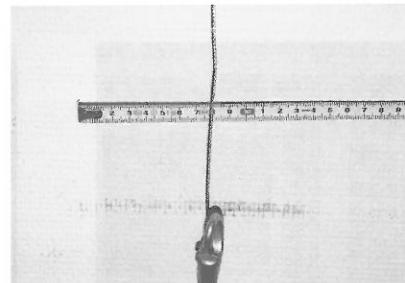
㉓淀井敏夫《エピタウロス・追想》の台座ズレ



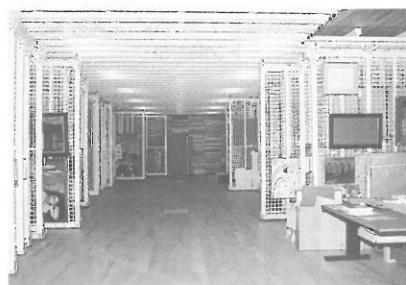
㉔可動壁のズレ
(企画展示室・落谷虹児展)



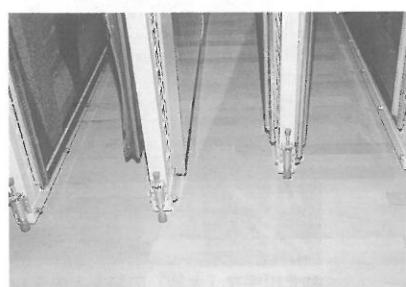
㉕可動壁のズレ
(同左)



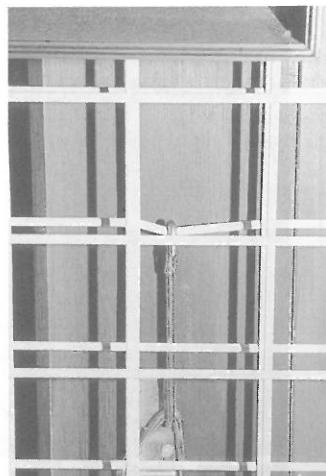
㉖展示ワイヤーのズレ
(写真は展示室1のもの)



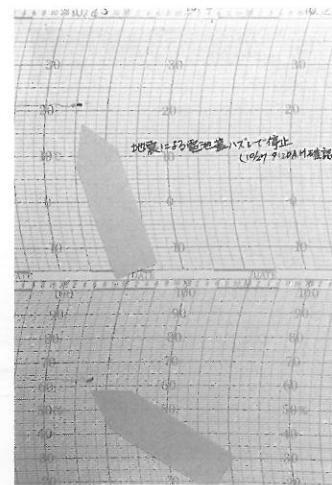
㉗ハンガーの飛び出し



㉘ハンガーの飛び出し



㉙ハンガーメッシュの歪み



㉚温度度計の電池蓋の開放により停止

展示・保存状況の推移

所蔵品展示室

10月23日(土) 通常開館 企画展「落谷虹児展」+常設展

午後5時閉館。午後5時56分に本震。その後断続的な余震。

10月24日(日)～11月6日(土) 休館

その間の経緯 10月24日(日) 活発な余震を警戒し29日(金)までの閉館を決定。
10月25日(月) 朝6時、きわめて大きい余震発生
10月26日(火) 開館を一週間延期し5日(金)までの閉館を決定。
10月27日(水) 午前11時前、本震並みの余震発生。
11月3日(水) 建物施設点検。
11月4日(木) 全員通常出勤。朝9時前、大型余震発生。
11月5日(金) 来館者の安全確保のため、エントランス・ホール周りの調査・修理を
～6日(土) 実施。7日(日)から開館とする。

11月7日(日) 通常開館 企画展「落谷虹児展」+常設展

11月8日(月) 通常休館日 常設展の展示替え

午前、展示作業中に震度4。立て続けの余震。作業中止。午後より協議。
借用中の作品の保全、来館者の安全の確保などを考慮し、企画展「落谷虹児展」の中止と、11日(木)までの閉館を決定。ただ、建築そのものには被害が少ないとから、被災者へのエールの意味を含め、常設展示のみ、余震により影響を受けると思われる作品を撤収した上で、可能な限り開館することとした。

11月9日(火)～11日(木) 休館

その間の経緯 11月10日(水) 未明、震度4の余震発生。

11月12日(金)～通常開館 常設展のみ

以後、通常開館を続けて、現在にいたる。

企画展示室

10月23日(土)

パネル、ケースのずれを確認

落下、破損作品の無いことを確認

10月25日(月)

タブロー、大型作品を壁面より撤去

作品借用先へ状況を報告する

10月27日(水)

壁面作品全て撤去

11月5日(金)

パネル修正

作品展示

再開について借用先に連絡、了解をもらう

11月7日(日)

展覧会再開

来館者97人

11月8日(月)

展覧会中止決定

中止を広報

作品撤去

前売券の払戻しについて財政課と協議に入る

11月25日(木) 26日(金)

造作、看板撤去

12月14日(火)～2005年12月27日(月)

前売券の払戻しを行った（一般204枚、大・高2枚）

収 蔵 庫

10月23日(土曜日)地震発生後、23時より長岡在住の学芸4名(松矢、澤田、小西、長嶋)で被害状況の確認のため、3室ある収蔵庫の点検に入る。ハンガーラックの飛び出しを確認・撮影後、個々のハンガーからの絵画等の落下、傾斜、また、彫刻、工芸などの転倒、落下など異常が認められたものを確認、撮影する。同時にハンガーの動作異常を目視および確認するが異常は認められず。その後、余震に備え、収蔵状況で異常があったものをとりあえずラックから下ろすなど、応急措置を施し、24日前半2時30分頃までに一通り行った。

翌24日(日曜日、臨時休館)、25日(月曜日・休館日)は、余震も続き、また職員も手薄であったため、現状維持のままで(同日、施設管理会社による収蔵庫チャンバー等の点検を行う)、26日(火曜日、臨時休館)から、収蔵庫の再確認と安全措置を行う。ラックに掛かっているが、耐震フックでないものをサラシ布や綿紐で縛る、ヒートンであったものを吊り金具に交換する、棚上のものを床に下ろす、また、軸などの棚からの飛び出し、彫刻の転倒がないように、サラシ布を縛り付けるなどを施す。こうした作業中、翌27日(水)大きな余震があり、ハンガーラックの揺れを目の当たりにする。28日(木)まで作業を行う。

29日、30日両日、当館所蔵品展のために長野県信濃美術館に貸し出す作品の点検、梱包作業を同館伊藤、木内学芸員と共に、収蔵庫および搬入口で行う。

10月31日以降も耐震フック、吊り金具の交換を一月ほど行い、ひとまず収蔵庫の地震対策を終える。また、11月3日(祝)収蔵庫周囲のキャットウォークに施設管理会社、設計会社、施行会社と共に入り点検、異常がないことを確認した。

4. 建物・施設の被害と復旧

被 告 状 況

元々、地盤が良くないところであるが、パネルを打ち対策を講じていたため建物本体には大した被害はなかったが、対策を講じていない部分、例えば駐車場、入口周辺及び南側池周辺の通路等に被害が生じた。しかし、長岡市において震度6弱を最高に5弱以上の余震が5回も発生したことを考えれば不幸中の幸いであったといえる。

【別表】のとおり

点検と復旧

強い余震が頻発したため休館を余儀なくされた。本震直後から目視により被害状況を確認してきたが、隠れて見えない部分も含め全体的に影響がどの程度あり、開館に支障があるのかどうかを判断するには専門家による点検が必要と考えた。

○経 過

・平成16年10月24日(日)

当館を施工した企業体の一社であるT建設(株)北信越支店長岡営業所職員による被害確認

・平成16年10月25日(月)

T建設(株)本社職員2名による被害確認。

・平成16年10月26日(火)

当館の設計者(株)N設計に被害状況の点検を依頼。

・平成16年11月3日(祝)

(株)N設計、T建設(株)の建設当時の担当者による建物点検を実施(把握済み箇所を中心にして)

<点検結果>

①建物本体への影響は少なく、同じような余震があっても問題ない。躯体が堅固なため入館者を無理に外に避難させる必要はない。

②エントランスホールの天井(石材)の位置調整用ボルト1個落下による危険性排除のため天井全体のボルト点検が必要。

③エントランスホールの二階上部壁面のずれ点検必要。

④上記2点を確認すれば11月6日の開館は問題ない。

・平成16年11月5日(金)

①エントランスホールの天井上部のボルト点検実施→問題なし

②エントランスホール二階上部壁面のずれの点検実施→止め金具の破損の可能性があるため、明日緊急修理を行うことを決定し、休館を一日延長する。

③応急処置として入口付近と南側池周辺の通路ブロック張替補修及び駐車場から雁木下歩道への乗り入れ部分等の擦りつけ補修を実施。

・平成16年11月6日(土)

エントランスホールの二階上部壁面のずれ対策として、強固な金具及び接着剤での取り付け修理完了。

・平成16年11月7日(日)

開館

- ・平成16年11月8日(月)
長岡震度4の強い余震が立て続けに発生したため、11日(木)までの休館及び落谷虹児展の中止を決定。
- ・平成16年11月12日(金)から開館（常設展のみ）
- ・平成16年11月中旬
被害の修復費用をとりまとめるが、見積業者が道路等の緊急復旧工事を優先しているため概算での見積となる。
- ・平成16年12月
新潟県臨時県議会において復旧費の県予算確保。
- ・平成17年2月1日
国の災害関連補正予算成立
- ・平成17年3月17～18日
補助金額の査定（書類審査）
- ・平成17年8月～9月で災害復旧工事を実施。

【別 表】

「新潟県中越大震災」による建物・施設関係の被害状況（地震以前からの傷が拡大したものも含む）

(1) 外 部

場 所	被害状況 (→○番号は写真番号)	範囲・数量
駐車場周辺	起伏（高低差約20cm） (→①)	約320平方メートル
	ひび割れ（最大幅3cm） (→②)	約170メートル
	建物との取り付けに段差（最大6cm）	約30メートル
	歩道ブロックとの取り付けに段差（最大8cm）	約130メートル
入口付近	通路ブロックに沈下（最大6cm） (→③)	約50メートル
	車寄せアスファルトに段差（最大3cm）	約15メートル
南側池脇の通路	ブロックに沈下（最大30cm） (→④)	約180平方メートル
車庫脇	コンクリート塀のクラック（最大3cm）、タイル割れて落下 (→⑤)	
	アスファルトの沈下（最大5cm、水たまり）	約50平方メートル
ミュージアムショップ脇外部	庇天井ボード破損	1枚
2階レストランテラス周辺	コンクリート柱下部（防水モルタル部分）にクラック（最大4ミリ）	多数

(2) 内 部

場 所	被害状況 (→○番号は写真番号)	範囲・数量
エントランスホール	2階上部壁面（石材）の破損 (→⑥)	2枚
	天井（石材）の位置調整用ボルト落下	1ヶ
第2収蔵庫	二重天井の床・壁にヘアークラック（最長2.5メートル）	4本
企画展示室ロビー付近	壁（モルタル）にヘアークラック（最長3.0メートル）	12本
企画展示室入口脇トイレ	床下の土陥没	約2.5平方メートル

【被害状況写真】



①駐車場周辺の起伏



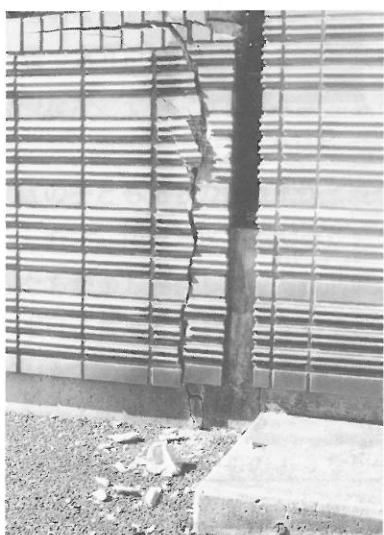
②駐車場ひび割れ



③入口付近 通路ブロックの沈下



④南側池脇 通路ブロックの沈下



⑤車庫脇 コンクリート塀のクラック及びタイル落下



⑥エントランスホール 2階上部壁面の破損

5. 災害情報の公開

地震発生時、自宅にいたため館の状況把握や館員との連絡は、当日はわずかに繋がる携帯メールとなり、テレビ、ラジオでしか情報が把握できない不安、不自由さを痛感した。そこで館内の対応が一息ついた3日目、10月25日月曜から館のHPで情報を伝えた。一般向けの情報発信だけでなく、全国の美術館、博物館の関係者にも館の現状を報告するよう心がけた。また職員の状況も伝えることにした。被害状況を画像で伝えることで文字だけでは伝わらない現状も伝えることが出来た。余震が続く中、詳細な経過を記録することは困難だったが、HPが後に記録メモとして役立った。停電しなかった館の事務室から被害のない新潟市のサーバーに接続出来たことも更新を容易にした。被災後の情報発信の一例になれば幸いである。

中庭壁画に因して 最終更新 2004. 11. 2 17:20
自宅壁画などの状況報告 美術館関係者への報告のために
下部に「お問い合わせ」と「お問い合わせ方法」を追加

企画展などお問い合わせ・状況確認の電話、メール、FAX 多数 ありがとうございます。
作品は 万葉美術館および市外出張者からの連絡で ほどこりています。
事務室へ巡回販売を行えずし、平素用務も行っています。電話、メール、FAX 電便、宅急便 可

作品保護について
展示室は「ワイヤー」作成のガラスカーテンを設げずに、ダメージは最小限です。下部に画像あり
工作機械による修理等の際は、ガラスを保護するため、扇風機が備わる。
輸送時 たまにものは大きすぎると、グリーンテープで固定する。
從って 収蔵庫内の「ハンガー」が割れたり ヒートシールの上部のヒートが落ちなど落としたのは
機械の手に掛けてはぶつかったのか?と疑われます。
仕事場では、必ず机の上に置くように規定されています。
従って この数日で 用途の角度の違い、慣れ、落下に対する防止措置を可能な限り行っています。
收蔵庫室内 自体、外物とも並んで、亀裂や変形等による落としでも落ちないため
現時点では 余裕があるまま 収蔵庫への作品搬入が最優先と考えています。

東京営業所からの支店受取および宿泊施設の連携が十分でない(?)道筋も日々不適所場が変わります
一交換式に改めさせてきました。
旅館 <http://www.watanabe.com/light>
JR <http://www.east-jr.jp/train/info/sharelist.asp>

より便利なように2回の荷物の受け取り 現時点では 美術館側への支援は お蔵入りです。
最近、万葉美術館、他館への移動が必要となった場合は、支援をお願いすることになります。

ご理解ご協力をお願いいたします。もちろん探偵は 安全が確保された階段で受入れができると思います

等
23日 地震発生時より 感覚 電気、水 通じている 28日現在 状況変化なし

作品保管録等

11月8日 午後2時~ 5時 徹収作業

11月8日 午後1時~2時 關鎖するか鏡内協賛 薮谷虹児展中止決定 所蔵品展のみで12日(金)開館を決

11月9日 通常の所蔵品展示作業 11時18分湿度5度(長岡湿度4) 作品に異常なし。 作業中止

11月22日 收蔵庫横棧 フック直接 ヒートが曲がっているもの等 ハンガーの受けに陥るし サラシで吊り直す

29日~30日 暖温藝術への貸し出し作品 横棧 帯

20日 收蔵庫横枠 フック直接 ヒートが曲がっているもの等 ハンガーの受けに陥るし サラシで吊り固定
常設展示室 補助金抜收

タキシマナガ フック直接

27日 企画展全般 収蔵庫横枠 10~11時 余蔵 (万葉島美術館 來館者追跡調査 作品異常なし)

26日 10:30 破損作業撤去 壁面を傷み入れ、收蔵庫1へ 企画展一時撤収、收蔵庫へ

26日 10時 ボロボロハイド 高石垣と木目 破損した人 破損した人 与坂、柏崎 六日町経由で出勤

6月 9:00~ 10時 収蔵庫1 工程作業 額の傾きに位置に移動 梱箱等 ひも掛け 第2.3、点検

2月 8日~10日 館外直射日光

20日 徒歩 1回 既存の壁面に貼付するシールにて示す 運搬時点検

余蔵発生3:40分 エレベーター 余蔵へ運搬 收蔵庫点検

26日 10:30~ 旗博館まで移設する状況確認連絡作業中

25日 10:30 常設展示室 舞羽(ブルーハウス)にたたいて運搬していた作例 1点 移動、
同様表示台場ににおける ガゼンバー、バラック、羽田山下 3点
收蔵庫 組の構成の点 指摘ある。
ニーパラナード サラシで吊り直す

25日6:05 大きな余蔵この二地盤での作例被害なし。余蔵へ収容 実置点検

24日 痕跡状況: 作品・破損痕 痕がこちら破損していないよんと同時に時時点ではお蔵お蔵に対する評価は
今後の状況に応じて見直す。 こもるると言われます。各の心配に感謝いたします。電気、電話、メール
職員全員健在です。現在は余蔵が閉まっています。

25日 6:05 大きな余蔵この二地盤での被害なし。(HTR topへの搬送情報等) (宿泊開始 実置、移設 ピル

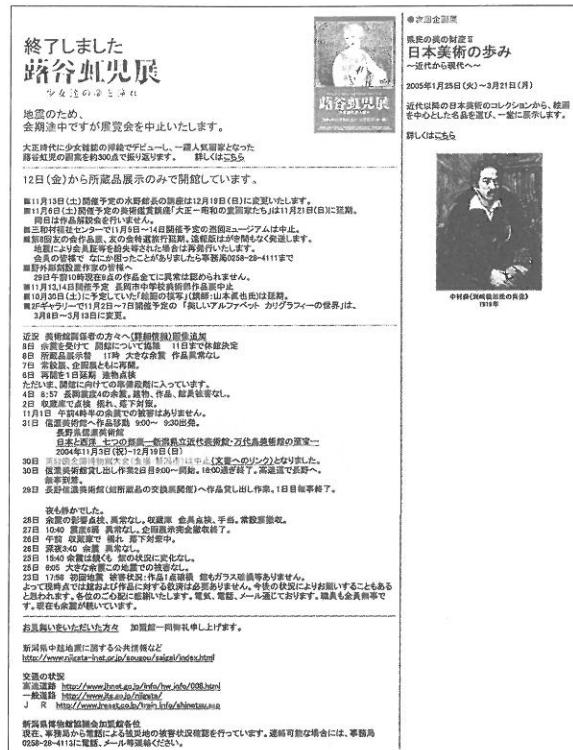
23日 午後7時から午後8時 徒歩被害確認 宿泊準備

23日 鳥取県震度 余震が発生危険の為 入館せず

23日 午後7時50分 地震発生

*本稿データ部分の執筆分担は、以下のとおり。

2. 地震の経過(佐々木奈美子)、3. 作品の被害状況と処置(松矢国憲、佐々木奈美子、小西珠緒、小見秀男)、4. 建物・施設の被害と復旧(笠間清一)、5. 災害情報の公開(宮崎俊英)



当館ホームページ（トップページ部分。
詳細情報をクリックすると下の画面が出る。）

